

第16回(平成22年度)

「水にかかわる生活意識調査」結果レポート

=水道水への評価は高いが、関心低い=

ミツカン水の文化センター(事務局:東京都中央区新川1-22-15茅場町中埜ビル9F 株式会社ミツカングループ本社 広報室内)では、本年6月中旬に、東京圏、大阪圏、中京圏の在住者1,500名を対象に、平成22年度「水にかかわる生活意識調査」を実施し、このほど集計結果がまとまりました。

近年、世界的に「水ビジネス」市場が拡大しており、「水メジャー」といわれる海外大手が大きなシェアを得ています。こうしたなか、日本でも国・自治体・企業が連携した国際展開が活発化し、“どこでも安全な水が飲める”日本の水道水の技術を海外で展開しようという取り組みが動き始めています。そこで今調査のレポートは、「水道水に対する意識」に注目してまとめました。加えて、東京・大阪・中京圏との対比を目的に、水道水のすべてが地下水でまかなわれている熊本市を対象に特別調査を実施しました。

「水にかかわる生活意識調査」は、センター設立に先立ち、1995年に第1回目を実施して以来、ほぼ同じ内容で毎年6月に行っており、今回が16回目になります。日常生活と水とのかかわり、生活者の水にかかわる環境意識、水と日本文化などについてアンケート形式で調べることにより、生活者の実感としての水の諸相を明らかにしようというものです。これまではファックス調査としましたが、昨今の通信環境の変化により今年からインターネット調査とし、調査項目を絞り込むなど見直しを行いました。

《調査結果トピックス》

水道水意識

◆東京・大阪・中京圏 評価高いが、無関心

◇水道水を高評価、不満なし …10点満点で7.23点、3人に1人が水道水に不満なし

◇水への関心低い!? …水に関する認知・経験、3人に1人が「特になし」

「水源地の認知」は約4割

◇災害に無防備!? …4人に1人が水の災害に「不安なし」、約半数が災害時の水の備えゼロ

◆熊本市 水道水の高品質と関心の高さの相乗効果

◇水道水をさらに高評価 …10点満点で平均8.39点、10点満点は約3割

◇水への関心高い …約6割が「水源地を知っている」

◇「水道」に高い誇り …約6割が「湧水」「水道」に誇りがある

◇熊本市民の水の都は「熊本」 …約7割が「水の都は熊本」

その他の水意識(東京・大阪・中京圏)

◇生物多様性を支持!? …約6割が「生き物が豊かな水辺」を子どもたちに伝えたい

◇きれいな水を残すためには「森林保全」 …女性は「家庭」の努力と「企業」のアクションを要望

◇100年後は金銭的負担増 …3人に1人が「環境税導入」「水道料金高騰」を予測

【この件に関するお問い合わせ先】

ミツカン水の文化センター 事務局

〒104-0033 東京都中央区新川1-22-15茅場町中埜ビル9F

株式会社ミツカングループ本社 広報室内

TEL.03-3555-2607 FAX.03-3297-8578 <http://www.mizu.gr.jp>

* 第1回(1995年)～第16回(2010年)「水にかかわる生活意識調査」の集計概要は、上記HPで紹介しています。

《結果の抜粋と掲載ページ》

■水道水の評価とイメージ／東京・大阪・中京圏

- ◇水道水の評価は10点満点中7.23点
3エリアで最も評価が高いのは中京圏の7.67点 3ページ
- ◇3人に1人が水道水に不満なし、不満のトップは3人に1人があげた「料金が高い」 3ページ
- ◇水への関心低い
水に関する認知・経験、3人に1人が「特になし」、「水源地の認知」は約4割 4ページ
- ◇4人に1人が水の災害に「不安なし」 4ページ
- ◇半数近くが災害時の水の備えゼロ 5ページ
- ◇約7割が「水で誇れることはない」 5ページ
- ◇20代の半数に節水意識なし 6ページ
- ◇女性の約8割が「歯磨き中に水を出しっぱなしにしない」 6ページ

■特別調査：水道水の評価とイメージ／熊本市

- ◇熊本市民の水道水評価は8.39点、10点満点は約3割 7ページ
- ◇熊本市民は水関連の認知・経験が豊富 8ページ
6割近くが「水源地を認知」、約4割が「利水・水道施設の見学経験あり」
- ◇熊本市民の約9割が「水に関して誇れるものがある」
誇れるものは「湧水」「水道」 8ページ
- ◇熊本市民の水の都は「熊本」 9ページ
- 《ご参考》水の都、大阪圏は「大阪」、中京圏は「大垣」「郡上八幡」、東京圏は「思い浮かばない」 9ページ

■生活と水、水への想い／東京・大阪・中京圏

- ◇好きな水辺は「溪流・滝」「海の砂浜」 10ページ
- ◇半数以上が生物多様性を支持！？子どもたちに伝えたい「生き物が豊かな水辺」 10ページ
- ◇きれいな水を残すため、男性は「森林保全」と「教育」に託す“将来展望型”
女性は「家庭」の努力と「企業」のアクションを求める“即実行型”！？ 11ページ
- ◇3人に1人が「環境税導入」「水道料金高騰」を予測 11ページ
- ◇地球温暖化ストップのために払ってもよい金額は月額2,856円 12ページ
- ◆調査概要 12ページ

参 考 「ミツカン水の文化センター」と「水にかかわる生活意識調査」について

ミツカングループは1804年(文化元年)の創業以来、酢の醸造を社業の中心としてきました。酢の製造に水は欠かせないものであり、ミツカングループは水の恩恵を受け、水によって育てられてきたといっても過言ではありません。それだけに、ミツカングループの水に対する関心は創業当時から一貫して高いものでありました。

1999年1月に、「水の文化」に関するさまざまな研究や情報交流活動を推進していく母体として「ミツカン水の文化センター」を設立。センターを活動拠点に研究活動、市民参加型の実践的研究活動「水の文化楽習」、機関誌「水の文化」の年3回の発行、ホームページでの情報提供、イベント「ミツカン水の文化交流フォーラム」の実施など、様々な活動を行っています。

「水にかかわる生活意識調査」も「ミツカン水の文化センター」の活動の一環として実施しているもので、研究事業の、そして一般生活者の啓発活動の基礎資料として有効活用していきます。

水道水の評価とイメージ／東京・大阪・中京圏

Q.水道水を10点満点で評価すると？（0～10の整数を自由回答）

◇全体の平均は7.23点

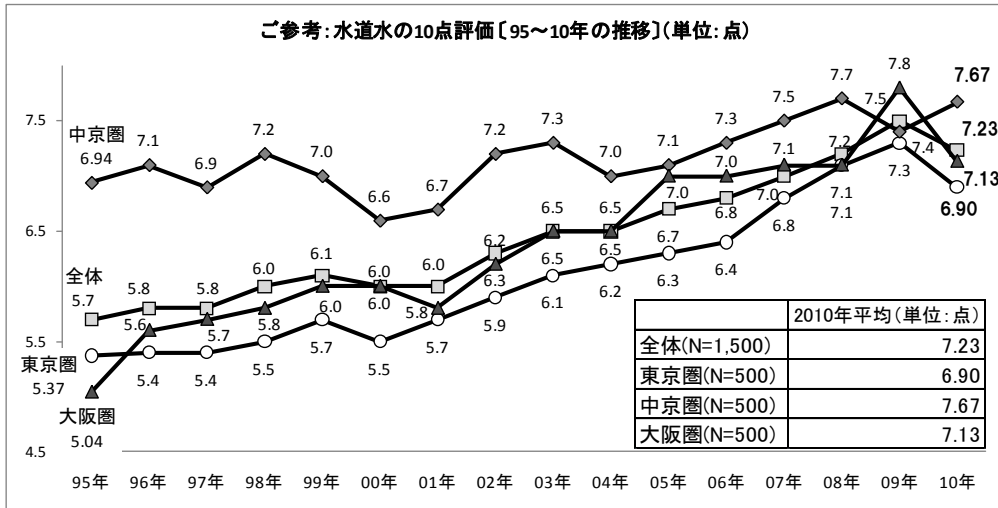
◇3エリアで最も評価が高いのは中京圏、7.67点

普及率は100%に近く、どこでも安全な水が飲める、“世界に誇るべき文化”である日本の水道。その水道水はどう評価されているのでしょうか？

10点満点で聞いたところ、全体の平均は7.23点でした。

居住地別に見ると、中京圏が高評価で7.67点。10点満点をつけた人も14.8%で、3エリア中で最多でした。最も評価の低い東京圏でも平均は6.90点。7.13点の大阪圏も含めて水道水に一定の評価を与えており、3エリアとも水道水に“ほぼ満足”しているようです。

特に中京圏は調査開始以来2009年を除いて、3エリア中最も高い評価を得ています。中京圏の主な水源は木曾川で、もともと水がきれいなことで知られ、名古屋市水道局は自然の力を借りてゆっくりと濾過する方式を採用するなど、おいしさの向上を図っています。そして中京圏は「水源地の認知」「利水・水道施設の見学経験」ともに3エリア中で最多で（次ページ参照）、好イメージと自治体の努力、居住者の認知・体験が相乗効果となって、水道水の高い評価につながっていると思われます。



* 2010年度より、調査方法をファックス調査からインターネット調査に変更しました。

* ご参考までに2009年までのデータを入れ込み、推移グラフとしました。

対象エリア：1995年…東京都、大阪府、愛知県、1996～2010年…東京圏(1都3県)、大阪圏(2府1県)、中京圏(3県)

有効回答数：1995～2009年…467～554、2010年…1,500

Q.水道水について不満を感じていることは？

(8択＋その他＋特に不満はない)

◇3人に1人が「特に不満はない」

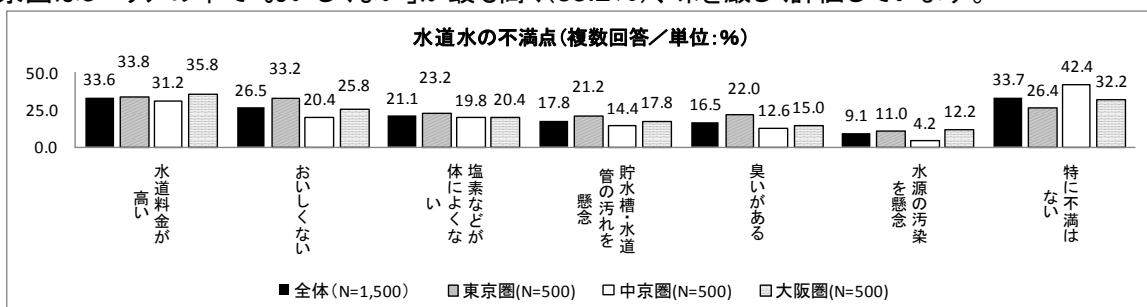
◇不満のトップは「料金が高い」

「水道水に対する不満」を聞いたところ、3人に1人(全体の33.7%)が「特に不満はない」としました。

一方、「不満」のトップは3人に1人(33.6%)が「水道料金が高い」とし、「おいしくない」(26.5%)は2位でした。

居住地別に見ると「特に不満はない」が1位だったのは中京圏だけで、大阪圏の1位は「水道料金が高い」(35.8%)でした。大阪圏を代表する大阪市は政令指定都市のなかで水道料金は最も安価ですから、この結果は“もっと安くして欲しい”という心情の現れといえるでしょう。

東京圏は3エリアの中で「おいしくない」が最も高く(33.2%)、味を厳しく評価しています。

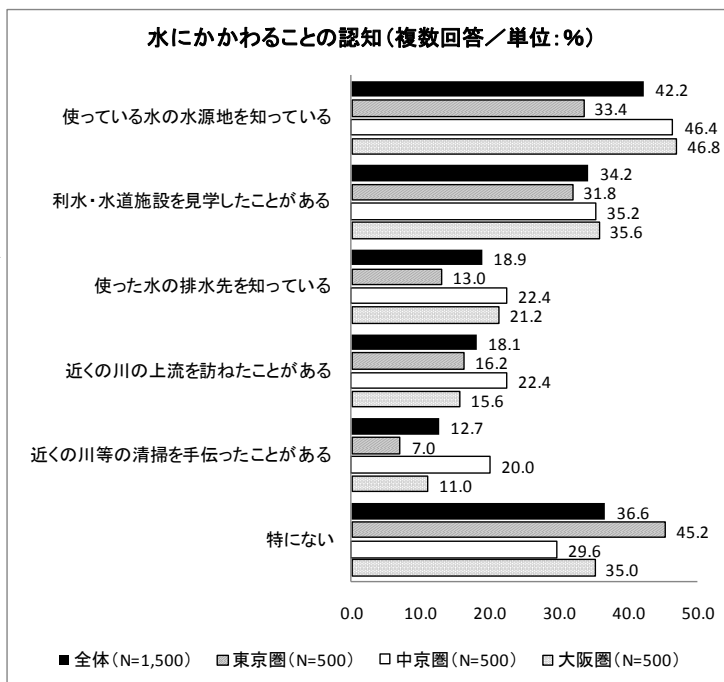


Q.水にかかわることで知っていること、経験のあることは？（5択+特にない）

◇全体の3人に1人、東京圏の2人に1人が「特にない」

水にかかわる事例を5つあげて認知・経験を聞いたところ、3人に1人(36.6%)が「特にない」と回答。特に東京圏は半数近く(45.2%)にのぼり、水に対して無関心な傾向がうかがえました。

「認知・経験」で最も多かったのは「使っている水の水源地を知っている」(42.2%)で、居住地別に見ると、大阪圏(46.8%)、中京圏(46.4%)で認知が高く、東京圏は3人に1人(33.4%)にとどまりました。中京圏は5人に1人(20.0%)が「川等の清掃」を体験していますので、他エリアに比べて水にかかわることに親しみがあるといえそうです。



Q.不安を感じる水の災害は？（16択+その他+特に不安を感じたことはない）

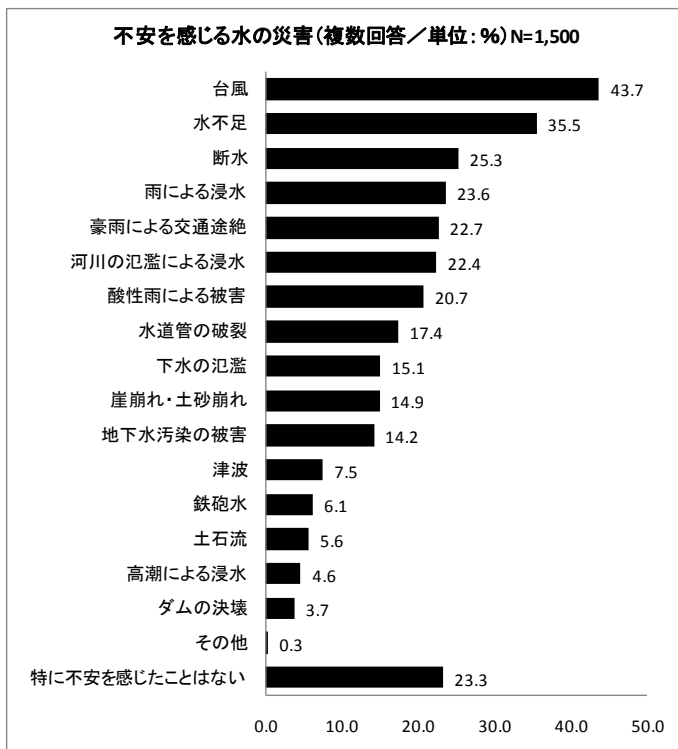
◇4人に1人が「特に不安を感じたことはない」

◇不安を感じる水の災害は「台風」「水不足」「断水」

「水による災害に不安を感じたことがあるか」を尋ねたところ、4人に1人(23.3%)が「特に不安を感じたことはない」とし、日頃の備えに不安を感じさせる結果となりました。

トップ3は「台風」(43.7%)、「水不足」(35.5%)、「断水」(25.3%)で、「水不足」「断水」が上位にあげられたことから、「水道水が出ない」ことへの不安を感じさせます。

居住地別に見ると、中京圏の3位は「河川の氾濫による浸水」(26.8%)、4位は「雨による浸水」(26.0%)で、2000年の「東海豪雨」など、大災害の記憶が影響しているようです。



不安を感じる水の災害トップ5(複数回答/単位: %)

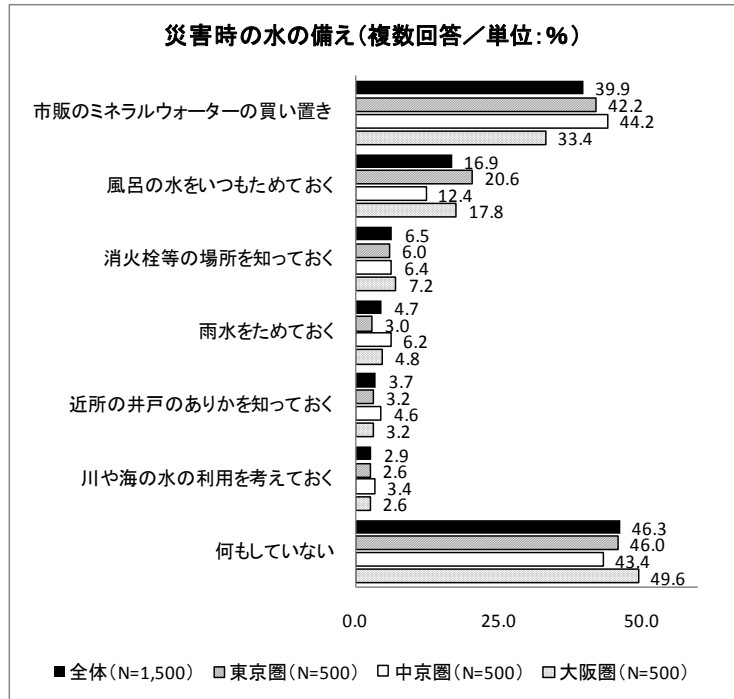
	全体(N=1,500)	東京圏(N=500)	中京圏(N=500)	大阪圏(N=500)
1位	台風 43.7	台風 42.2	台風 48.0	台風 40.8
2位	水不足 35.5	水不足 40.0	水不足 35.6	水不足 30.8
3位	断水 25.3	断水 27.2	河川の氾濫による浸水 26.8	断水 24.2
4位	雨による浸水 23.6	特に不安を感じたことはない 25.2	雨による浸水 26.0	雨による浸水 22.4
5位	特に不安を感じたことはない 23.3	酸性雨による被害 23.4	断水 24.4	豪雨による交通途絶 21.8

Q.災害時用の水の備えは？ (6択+何もしていない)

◇半数近くが「何もしていない」

「地震などの災害時に向けた普段の水の備え」を聞いたところ、半数近く(46.3%)が何の備えもしておらず、居住地別に見ても大きな違いはありませんでした。

いつでも蛇口から水道水が出てくるという安心感が、万全な備えを怠らせているのかもしれない。



Q.あなたの居住地域に、水に関して誇れることはありますか？

Q.水に関して誇れることは何ですか？

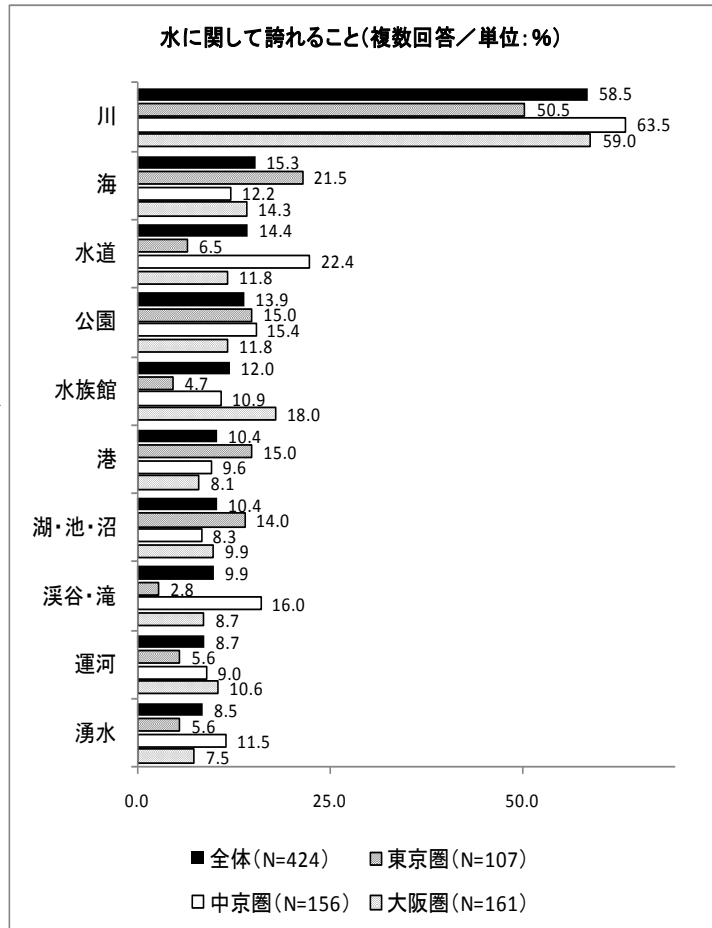
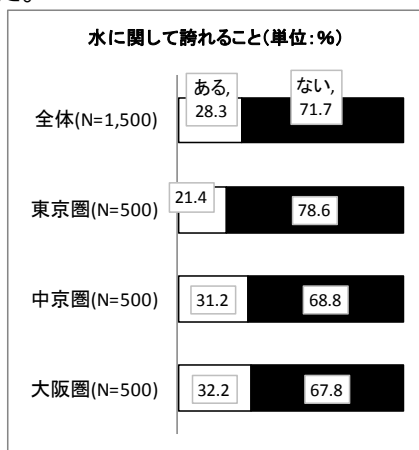
(15択+その他/前問で「誇れることがある」人のみ回答)

◇約7割が「誇れることはない」

◇中京圏の3人に1人が「ある」、そのうち4人に1人が「水道」

全体の約7割(71.7%)が、「居住地域に水に関して誇れることはない」としました。「ある」を居住地別に見ると、最も多いのは大阪圏(32.2%)で、最も少ないのは東京圏(21.4%)でした。

次に、「誇れるものがある」人を対象に、具体的に「何か？」を聞いたところ、約6割(58.5%)が「川」、以下「海」(15.3%)、「水道」(14.4%)「公園」(13.9%)と続きました。居住地別に見ると、中京圏の4人に1人(22.4%)が「水道を誇れる」としており、大阪圏の約2倍、東京圏の3倍強になりました。

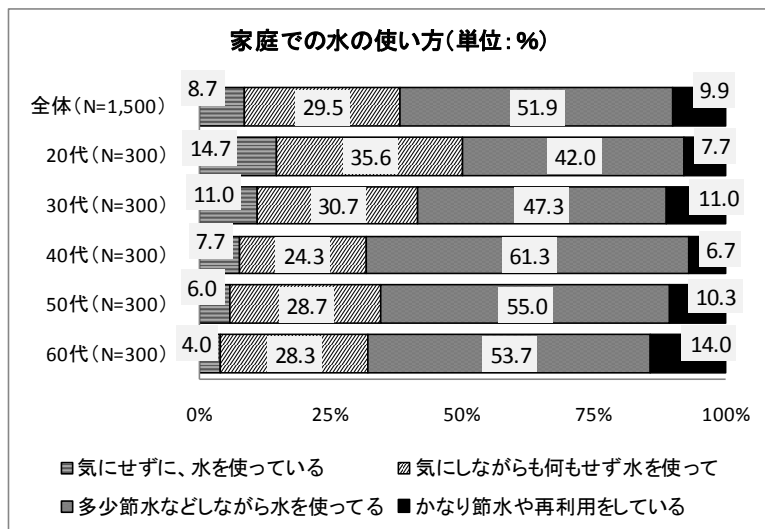


Q.水の使い方は？ (4択)

◇20代の半数は節水意識なし

家庭での水の使い方について聞いたところ、5割以上(51.9%)が「多少節水や再利用しながら水を使っている」、10人に1人(9.9%)が「かなり節水や再利用をしている」と回答し、合わせて約6割が「節水している」傾向がありました。

その一方で年齢層別に見ると、30代以下で「節水している(「多少節水」+「かなり節水」)」が減少する傾向が見られ、20代は半分以下(49.7%)でした。20代は特に節水意識が低いようです。

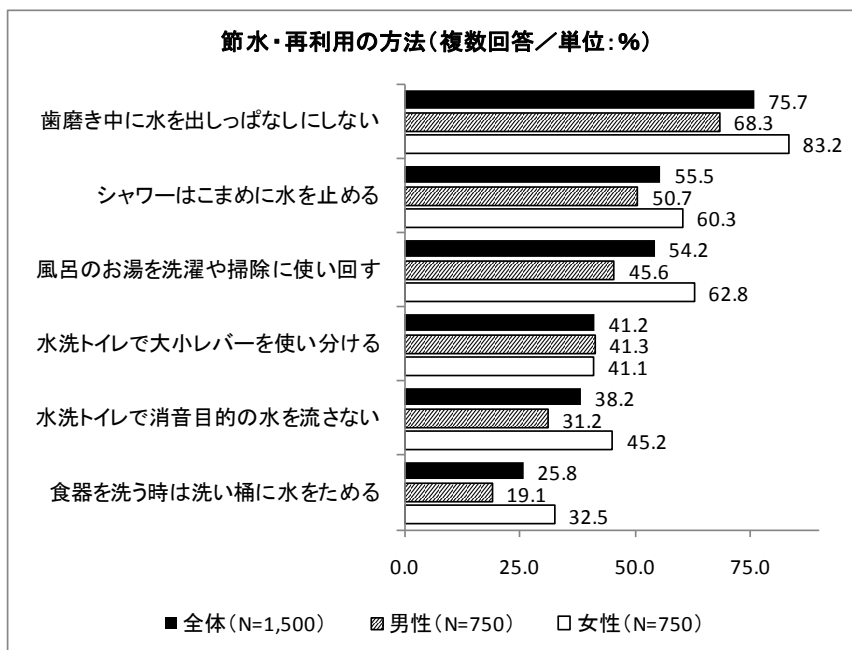


Q.節水・再利用の方法は？ (11択+その他+特にやっていない)

◇女性の約8割が「歯磨き中に水を出しっぱなしにしない」

具体的な節水・再利用の方法は「歯磨き中に水を出しっぱなしにしない」(75.7%)、「シャワーはこまめに水を止める」(55.5%)、「風呂のお湯を洗濯や掃除に使い回す」(54.2%)が実践されています。

男女別に見ると、「歯磨き」「シャワー」「風呂のお湯の使い回し」などで、女性は男性よりも多くの人が実践しています(83.2%、60.3%、62.8%)。女性は男性よりも水の節約を心がけているようです。



特別調査：水道水の評価とイメージ／熊本市

良質で豊富な地下水資源に恵まれ、水道水のすべてが地下水でまかなわれている熊本市。ミツカン水の文化センターでは、熊本市では水道水に対する意識が他の地域と異なるのではないかと予測し、同市在住の20～60代の男女469名を対象に特別調査を実施しました。その結果、「日本一の地下水都市」といわれる熊本市民の水道水に対する“誇りと愛着”が浮かび上がりました。

なお、ミツカン水の文化センターの機関誌『水の文化』35号(2010年6月)で、水にかかわる恵みを再発見する旅、「アクアツーリズム(水 環考)」を特集し、「熊本市の水」に関する記事を掲載しています(http://www.mizu.gr.jp/kikanshi/mizu_35/)。

Q.水道水を10点満点で評価すると？ (0～10の整数を自由回答)

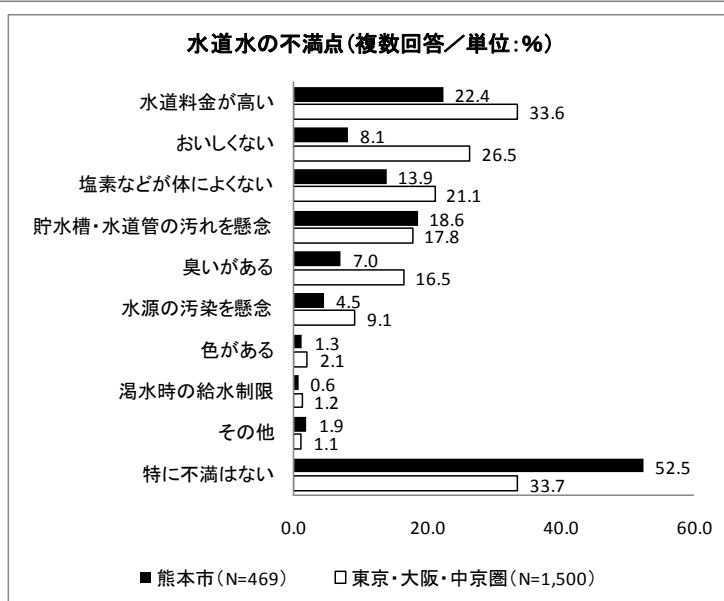
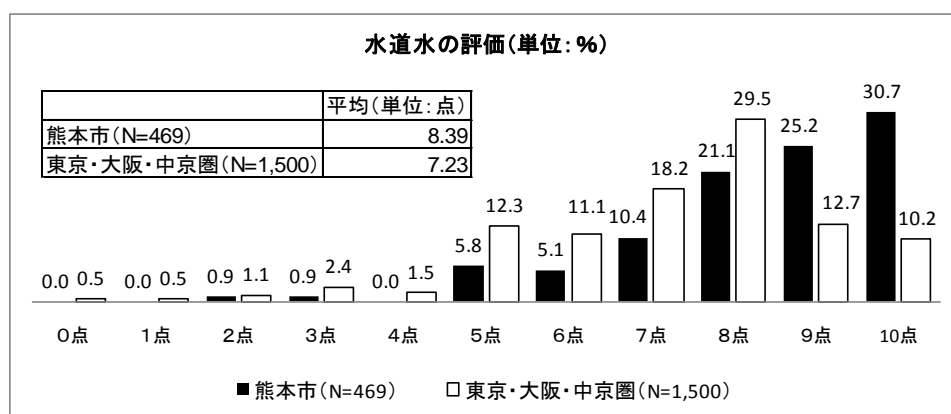
Q.水道水について不満を感じていることは？ (8択+その他+特に不満はない)

◇熊本市民の平均8.39点、10点満点は約3割

◇半数以上が「特に不満はない」

熊本市民の水道水に対する評価は平均8.39点。10点満点をつけたのは約3割(30.7%)でした。東京・大阪・中京圏(10.2%)と比較すると、約3倍に相当します。

また、熊本市民は半数以上(52.5%)が「水道水に特に不満はない」と回答。東京・大阪・中京圏(33.7%)よりも20ポイント近く(18.8ポイント)高く、熊本市民の水道水への満足度の高さが分かります。



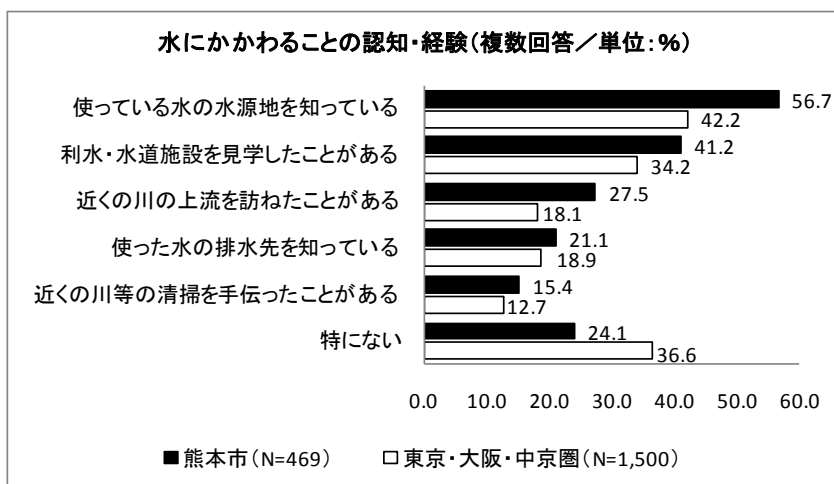
Q.水にかかわることで知っていること、経験のあることは？（5択＋特にない）

◇熊本市民の6割近くが「使っている水の水源地を知っている」

約4割が「利水施設・水道施設を見学したことがある」

熊本市民は56.7%が「使っている水の水源地を知っている」とし、半数を超えています。また41.2%が「利水施設・水道施設を見学したことがある」としました。

東京・大阪・中京圏と比較すると、「水源地を知っている」は14.5ポイント、「近くの川の上流を訪ねたことがある」は9.4ポイント高く、水資源への関心の高さをうかがわせました。



Q.あなたの居住地域に、水に関して誇れることはありますか？

Q.水に関して誇れることは何ですか？

(15択＋その他/前問で「誇れることがある」人のみ回答)

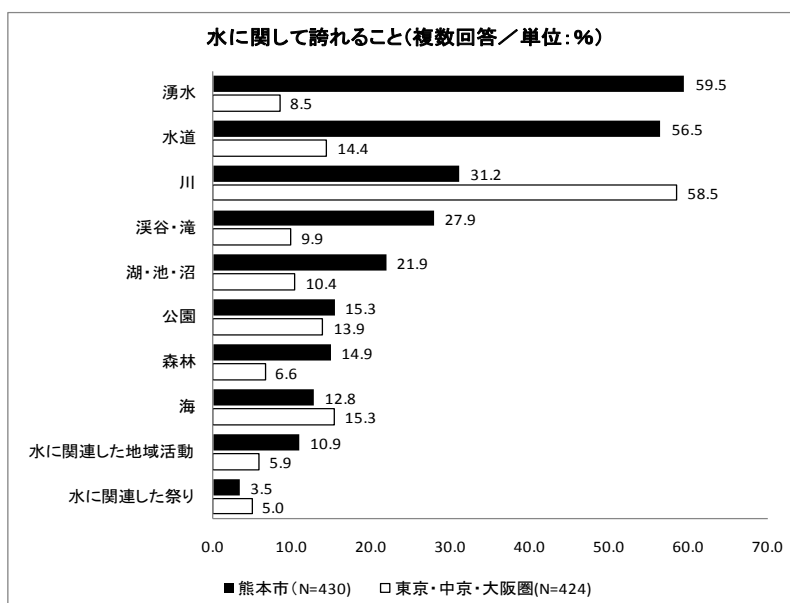
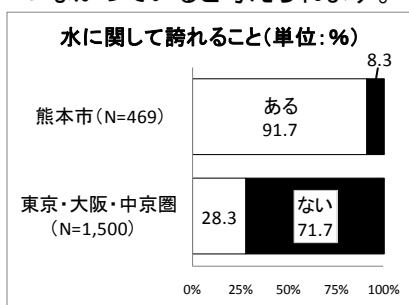
◇熊本市民の約9割が「水に関して誇れることがある」

◇誇れることは「湧水」「水道」

熊本市民の約9割(91.7%)が「水に関して誇れることがある」としました。これは東京・大阪・中京圏の3倍強に相当します。

そして「水に関して誇れること」として、熊本市民の「誇れることがある」人のうち59.5%が「湧水」、56.5%が「水道」をあげました。東京・大阪・中京圏で最も多かった「川」は31.2%で、3位でした(東京・大阪・中京圏は58.5%)。

東京・大阪・中京圏と比較すると、熊本市民の方が「湧水」は51.0ポイント、「水道」は42.1ポイントも高い結果になりました。湧水をはじめあらゆる水資源が「水遺産」として登録されている熊本では、水道水に対する誇りが高く、これが水道水の水源地などにも興味・関心を向けさせ、水源地の認知や施設の見学につながっていると考えられます。



Q.「水の都」のイメージにもっとも近い都市は？（自由回答）

◇約7割が「熊本」

熊本市民がイメージする「水の都」は、「熊本」。熊本市民の約7割(69.1%)が「水の都は熊本」としました。「日本一の地下水都市」熊本市民の面目躍如といったところでしょう。大阪圏の「大阪」(55.2%)、中京圏の「大垣」「郡上八幡」の合計(23.0%)よりも圧倒的な得票率といえます。

なお、東京・大阪・中京圏で「熊本」と回答したのは1.3%でした。自由回答で居住地エリア以外の地名を記載する例としては決して少なくないのですが、今後、より県外に「水の都」のイメージを知らしめて欲しいものです(関心をお持ちの方は、ミツカン水の文化センターの機関誌『水の文化』35号 特集「アクアツーリズム(水 環考)」をご覧ください)。

水の都のイメージ都市トップ5(自由回答/単位:%)

	1位	2位	3位	4位	5位		
熊本市(N=469)	熊本	思い浮かばない	柳川	大阪	阿蘇		
	69.1	6.0	4.9	3.8	3.6		
東京・大阪・中京圏 (N=1,500)	大阪	思い浮かばない	大垣	京都	郡上八幡	滋賀	柳川
	23.5	19.1	5.9	3.1	2.9	2.9	2.9

【ご参考】

「水の都」、大阪圏は「大阪」、中京圏は「大垣」「郡上八幡」、東京圏は「思い浮かばない」

東京・大阪・中京圏を対象に、「水の都」という言葉のイメージに最も近い日本の町や都市をあげてもらったところ、全体のトップは「大阪」(23.5%)でした。居住地別に見ると、大阪圏は半数以上(55.2%)が「大阪」をあげています。大阪市や大阪府では昨年より「水都大阪」をテーマにしたまちづくりが始まっており、関西圏の「水の都は大阪」のイメージはますます強固になりそうです。

東京圏、中京圏は2割以上(23.4%、22.2%)が「思い浮かばない」としましたが、中京圏は17.2%が「大垣」、5.8%が「郡上八幡(ぐじょうはちまん)」をあげました。

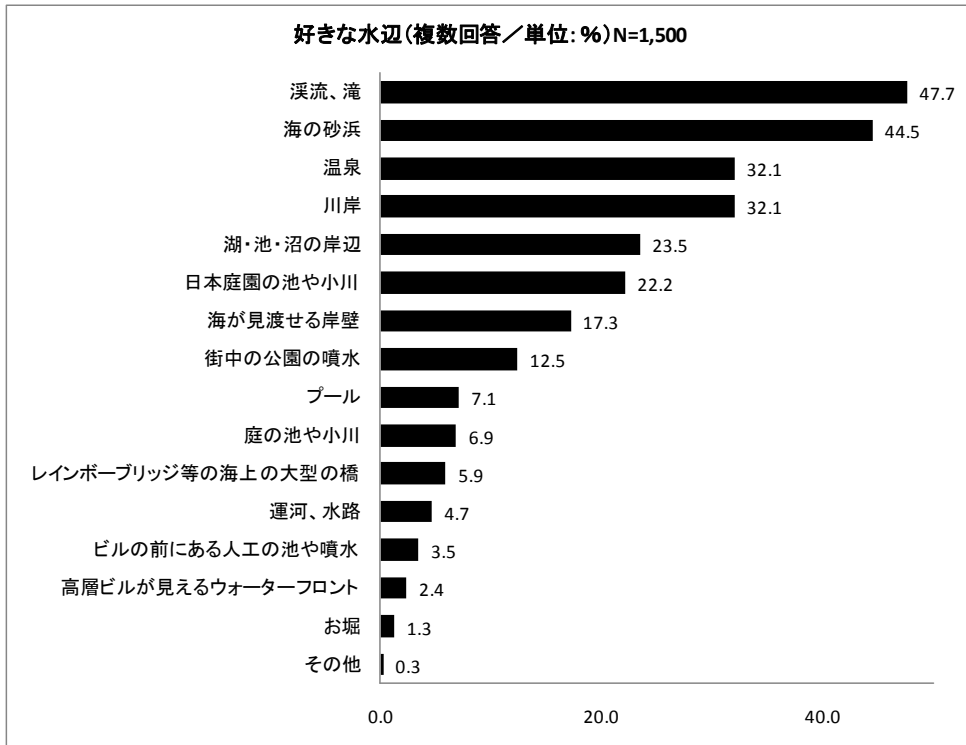
水の都のイメージ都市トップ5(自由回答/単位:%)

	1位	2位	3位	4位	5位		
全体(N=1,500)	大阪	思い浮かばない	大垣	京都	郡上八幡	滋賀	柳川
	23.5	19.1	5.9	3.1	2.9	2.9	2.9
東京圏(N=500)	思い浮かばない	大阪	柳川	京都	潮来		
	23.4	8.0	4.8	3.8	3.8		
中京圏(N=500)	思い浮かばない	大垣	大阪	郡上八幡	京都	柳川	
	22.2	17.2	7.4	5.8	2.6	2.6	
大阪圏(N=500)	大阪	思い浮かばない	滋賀	京都	仙台	大津	
	55.2	11.8	4.2	3.0	2.2	2.2	

Q.あなたが好きな水辺は？（15択＋その他）

◇「溪流・滝」「海の砂浜」「温泉」「川岸」

好きな水辺について聞いたところ、1位は「溪流・滝」(47.7%)で、以下「海の砂浜」(44.5%)、「温泉」(32.1%)、「川岸」(32.1%)でした。



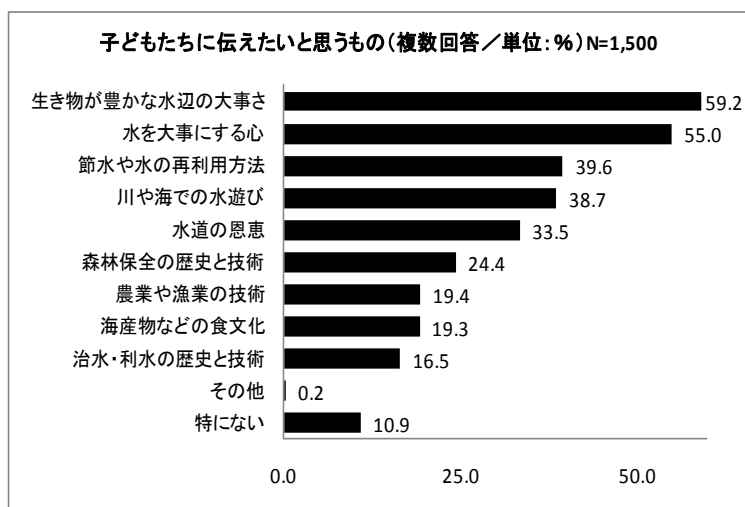
Q.子どもたちに伝えたいと思うものは？（9択＋その他＋特にない）

◇半数以上が生物多様性を支持！？

「子どもたちに伝えたいと思うもの」の1位は約6割(59.2%)があげた「生き物が豊かな水辺の大事さ」でした。

水辺は様々な生き物が生きる場所。しかし日本国内の水辺には、メダカやタガメなど、絶滅のおそれがある生き物が多くいます。

今年(2010年)は国際生物多様性年で、10月に「生物多様性条約第10回締約国会議(COP10)」が名古屋市で予定されています。この会議を機に生物多様性の話題が広まり、来年の当調査で上記の回答が増えることを期待します。

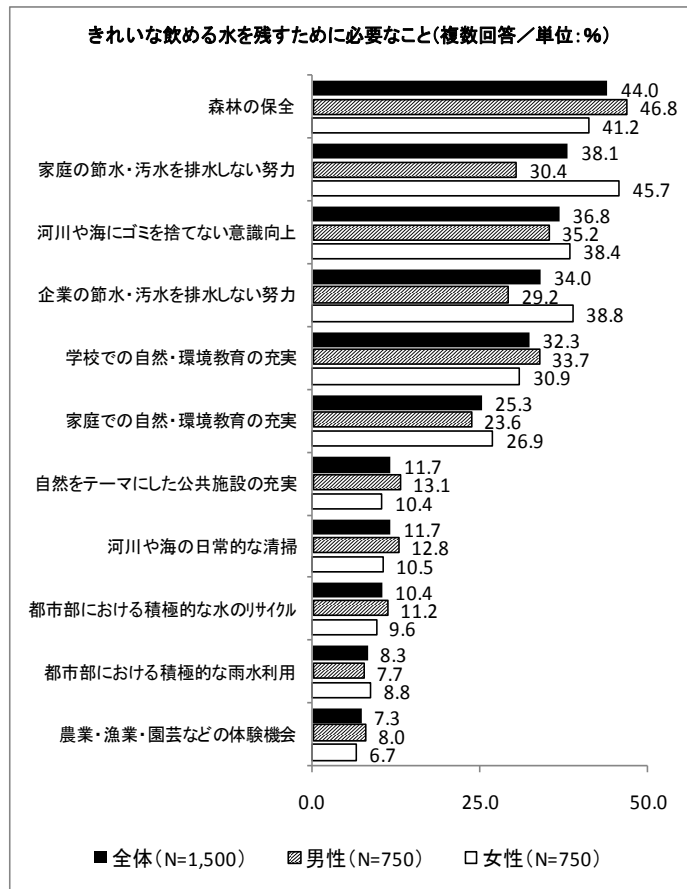


Q.きれいな飲める水を残すために必要なことは？（11択＋その他）

◇男性は「森林保全」や「教育」、女性は「家庭」「企業」の努力が上位に

「将来にわたって、きれいな水が飲めるようにするために必要なこと」を聞いたところ、全体の1位は「森林の保全」(44.0%)で、以下「家庭の節水・汚水を排水しない努力」(38.1%)、「河川や海にゴミを捨てない意識向上」(36.8%)と続きました。

男女別に見ると、男性は「森林の保全」(46.8%)、「河川や海にゴミを捨てない意識向上」(35.2%)、「学校での自然・環境教育の充実」(33.7%)の順で、“将来展望型”ともいえる項目が1位と3位に入っています。女性は「家庭の節水・汚水を排水しない努力」(45.7%)、「森林の保全」(41.2%)、「企業の節水・汚水を排水しない努力」(38.8%)の順で多く、女性は家庭での努力とともに、企業の具体的なアクションを望む“即実行型”といえそうです。

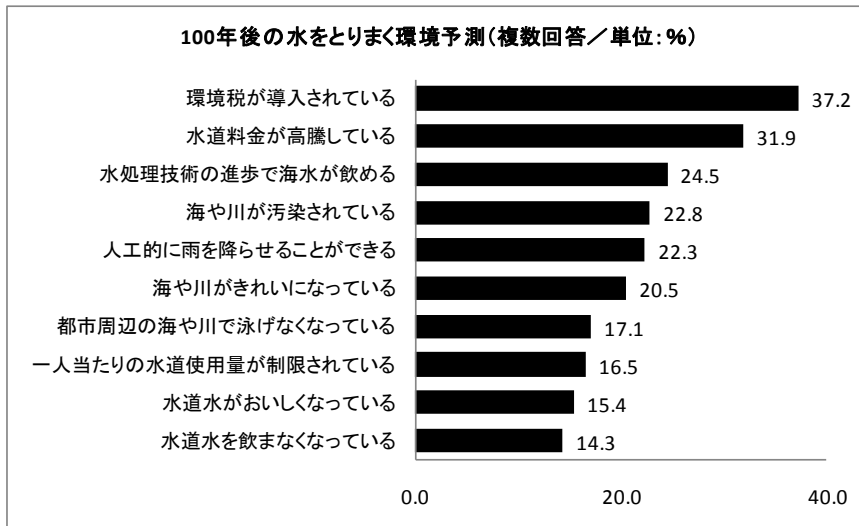


Q.100年後の水をとりまく環境は？（26択＋その他）

◇3人に1人が「環境税導入」「水道料金高騰」を予測

◇「100年後」にはポジティブな見方も

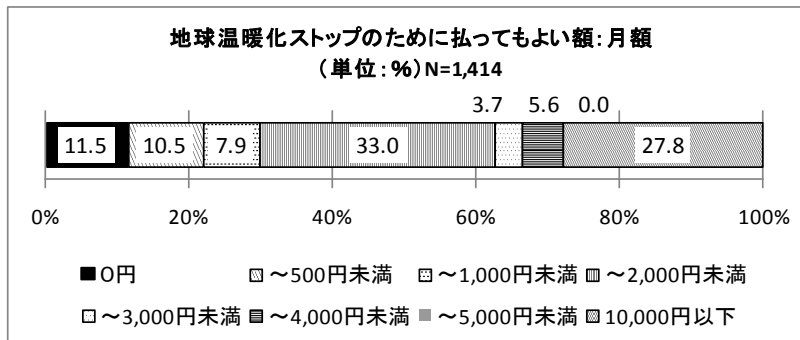
「100年後の水をとりまく環境」の予測1位は「環境税が導入されている」(37.2%)、2位は「水道料金が高騰している」(31.9%)と、金銭的負担の増加が上位を独占しました。その一方で、「水処理技術の進歩で海水が飲める」(24.5%)、「人工的に雨を降らせることができる」(22.3%)、「海や川がきれいになっている」(20.5%)といったポジティブな見方もそれぞれ20%以上が予測しました。



Q.地球温暖化ストップのために払ってもよい金額は？（金額を自由回答）

◇平均月額:2,856円

「地球温暖化をストップさせるために支払ってもよい金額」を聞いたところ、平均で月額2,856円でした。金額別に見ると「2,000円未満」(33.0%)が最も多く、次いで「10,000円以下」(27.8%)でした。



*「10,001円以上」を回答した場合には不明として集計しました(86件)。

【調査概要】

第16回(平成22年度)「水にかかわる生活意識調査」

- ◆調査対象数 : 1,500票
- ◆調査対象者 : 東京圏(東京、神奈川、埼玉、千葉)、大阪圏(大阪、兵庫、京都)、中京圏(愛知、三重、岐阜)に居住する20歳代から60歳代の男女
- ◆調査方法 : インターネット調査
- ◆調査期間 : 平成22年6月10日(木)～6月15日(火)
- ◆回収数(人) :

	東京圏		大阪圏		中京圏		合計		小計
	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	
20代	50	50	50	50	50	50	150	150	300
30代	50	50	50	50	50	50	150	150	300
40代	50	50	50	50	50	50	150	150	300
50代	50	50	50	50	50	50	150	150	300
60代	50	50	50	50	50	50	150	150	300
合計	250	250	250	250	250	250	750	750	1,500
	500		500		500				

特別調査「熊本市民の水にかかわる生活意識調査」

- ◆調査対象数 : 469票
- ◆調査対象者 : 熊本県熊本市に居住する20歳代から60歳代の男女
- ◆調査方法 : インターネット調査
- ◆調査期間 : 平成22年6月10日(木)～6月15日(火)
- ◆回収数(人) :

	男性	女性
20代	50	50
30代	50	50
40代	50	50
50代	50	50
60代	50	19
合計	250	219
	469	